

## 令和7年度（二俣川高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚と使命を持ち、法令遵守及び服務規律の徹底を図る。	令和8年2月20日、職員啓発・点検資料「コンプライアンス意識の醸成」を用いて事故防止研修を実施し、「神奈川県公立高等学校教職員の倫理に関する指針」を再確認し、教育公務員としての意識を高めた。
②職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ）の防止	職員一人ひとりが人権に配慮し、職場のハラスメント行為を未然に防止する。	令和8年1月29日、職員啓発・点検資料「職場のハラスメントの防止」を用いて事故防止研修を実施し、ハラスメントの種類を整理するとともに、セクハラやパワハラとなり得る具体的な言動について、改めて認識を深めた。
③生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行っている職員はゼロを目標とする。	令和7年6月27日、職員啓発・点検資料「STOP! ザ・セクハラ／わいせつな行為」を用いて事故防止研修を実施し、セクハラに該当する性的言動やその防止策を確認するとともに、性的マイノリティへの配慮についても理解を深めた。 令和7年7月31日、「教育長メッセージ動画」及び「元刑事が教える「その一線、越えたら終わり」～“先生”ではなく“容疑者”と呼ばれる日～」を視聴し、職員各自が振り返りのレポートを作成することにより、セクハラ等防止に向けた組織としての姿勢を明確にすることができた
④体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を保障し、体罰、不適切な指導を未然に防止する。	令和7年7月17日、職員啓発・点検資料「体罰、不適切な指導の防止」を用いて事故防止研修を実施し、体罰や不適切指導に該当する言動を点検し、日々の指導を見つめ直す機会とした。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理、調査書、推薦書等の作成及び発行において、点検を適切に実施しミスを根絶する。	令和7年5月15日、職員啓発・点検資料「定期試験・成績処理の事故」を用いて事故防止研修を実施し、定期試験の答案用紙紛失・滅失防止と成績処理のミス防止について、注意点を確認した。 令和7年12月22日、職員啓発・点検資料「入学者選抜の事故防止」を用いて事故防止研修を実施し、「過去の事故事例」から注意点を確認するとともに、入選業務に向けた心構えを新たにした。
⑥個人情報等の管理（教務手帳の管理、メールアドレス等の取得・管理）、情報セキュリティ対策	個人情報の取扱いには細心の注意を払い、流出や紛失を防止する。	令和7年4月17日、職員啓発・点検資料「児童・生徒の個人情報の取扱い」を用いて事故防止研修を実施し、個人情報の持ち出しや生徒との連絡方法に関する規定を、明確に周知し徹底した。 令和7年9月24日、職員啓発・点検資料「個人情報の適切な取扱い、情報セキュリティ」を用いて事故防止研修を実施し、個人情報の取扱いに関する基本的なルールを確認し、情報セキュリティの重要性について、理解を確かなものにした。

⑦交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守や交通マナーの向上により、無事故・無違反をめざす。	令和7年11月21日、職員啓発・点検資料「飲酒運転等の根絶」を用いて事故防止研修を実施し、飲酒の機会が増える年末年始に向けて、アルコールの作用やお酒のリスクを再認識した。
⑧業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	文書やファイルの共有化を進め、業務の協力体制を確立する。	令和8年3月、職員啓発・点検資料「風通しの良い職場づくり」を用いて事故防止研修を実施し、業務の協力体制について確認し、風通しの良い職場づくりに向けた方向性を、教職員間で共有した。
⑨財務事務等の適正執行	会計事務処理を適切に厳正に行い、事故を未然に防止する。	令和7年9月3日、管理職による会計担当者説明会を実施し、財務事務調査での指摘事項を説明するとともに、中間監査に向けて帳簿類の整理方法や留意点を周知した。 令和7年10月28日、職員啓発・点検資料「適切な私費会計の取扱いについて」事故防止研修を実施し、会計処理における誤りが生じやすい点や注意事項について確認した。

## ○ 令和8年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

年間を通して「不祥事ゼロプログラム」に掲げられた各課題項目に計画的かつ粘り強く取り組んだ結果、職員一人ひとりのコンプライアンス意識や危機管理意識を着実に高めることができた。日常の業務の中で、些細な変化や気が付いた点を遠慮なく言葉にして共有し合い、互いに確認しながら改善につなげていく姿勢が職場全体に徐々に根付きつつある。このような同僚性を発揮し合える協働的な職場づくりを、今後もさらに推進していきたい。

あわせて、時期や状況に応じて必要となる研修や情報共有の機会を適宜設け、全職員が最新の知識や判断力を身に付けられるよう支援していく。これらの継続的な取り組みを通して、事故や不祥事の未然防止を一層徹底し、安全で信頼される学校運営の実現に努めていく。